

一本松海運 株式会社

ものづくりの力を生かして
観光の発展を進める事業
内容大阪の河川を自在に
行き交う観光船を運航

「一本松海運」は、河川の工事を行う建設業からその歴史をスタート。それに加えて別の事業の柱が必要と判断し、観光船の運航に進出した。水の都として有名な大阪の河川を活用する。大阪弁による軽妙な案内が好評の「落語家と行くなにわ探検クルーズ」や約20分間で道頓堀川からの大阪の景色を楽しめる「とんぼりリバークルーズ」など人気の定番コースに加え、観光船を活用して期間・日付限定の運航を行うイベント事業も展開している。

すっかり地元に着したクルーズだが、実は大阪の川で観光船を運航するには低い橋桁が多いことが障壁となっていた。そこで船室の高さを変えずに船全体の高さだけ変化できる油圧を利用した二重構造の船舶を独自開発。乗客への圧迫感がなく快適なまま、どんな場所でもスムーズに通行できるようになった。「橋に頭をぶつけそうな恐怖もなく観光船を楽しんでもらえる」と一本松社長は独自技術に胸を張る。

補助
事業新たな観光起爆剤として
「ラッキードラゴン」を製作

観光船事業は好評で右肩上がりが続いていたが、最近の景気低迷に伴い伸び悩みがみられるようになった。一本松社長は「『水の都・大阪』としばしばいわれているが、いまひとつ活性化につながっていない」のではと感じ、大阪のシンボルになるようなパフォーマンスが必要だと考えた。

観光船での活用を踏まえ、世界的に水を守る存在としてのイメージが強い竜にたどり着いた。大阪府出身の芸術家であるヤノベケンジ氏のデザインを元に、油圧ポンプで動く竜の模型「ラッキードラゴン」の開発を決め、中小企業庁の「ものづくり補助金」に採択された。身体部分の上下動や首の上下左右への動きを可能にする油圧機構が対象。自社で設計を行い、観光船の開発で長年の協力関係がある製造業と連携して製作した。橋の下を自在に通る抜けるために開発した観光船の油圧技術を応用し、火や水を噴く演出も工夫した。



可動式の竜「ラッキードラゴン」



落語家と行くなにわ探検クルーズ



道頓堀を20分かけて周遊するクルーズ

具体的
成果試作を繰り返し、スムーズな
動きや豪快な演出を実現

開発は試行錯誤の連続だった。「試作品を船の上で実際に動かしてみると、思わぬ所に力がかかり破損することが多かった。仕様を変更して作り直すことの繰り返しだった」と一本松社長は語る。屋外の河川での運用のため、動かすたびに力がかかる力が変わり振動も起こる。大きな体でも安定して滑らかな動きを実現するため開発費も膨大となった。火や水を噴く演出も取り入れたため、安全性と迫力のある演出の両立にも工夫が必要だった。一本松社長は「補助金がなければ完成させることは不可能だった」と振り返る。

試作を重ね、イメージどおりの「ラッキードラゴン」1号機が完成。大阪府が主催する「水都大阪」イベントのシンボルイヤーである平成27年に、道頓堀川沿いの「とんぼりリバーウォーク（大阪市中央区）」で8月にお披露目した。自社のイベント船「どうじま号」に積み込んで道頓堀川を運航。周辺に水柱が上がる中で水を噴く演出も成功し、大勢の見物客から歓声が上がった。「ものづくりは大変だけど面白い」と一本松社長は手応えを感じた。

今後の
戦略ものづくり技術で
地域を盛り上げる

ラッキードラゴンの評判は少しずつ広まっており、イベントで動かしてほしいと大阪以外の地域からの依頼もある。要望を受けて出張演出の受注を本格的に始めた。費用は場所や日数、演出などの条件に応じてさまざま。イベント船に搭載して河川の運航を通して観光客に見せるのを基本としているが、トレーラーへの設置など要望に応じて陸上での利用も視野に入れる。香港など海外からの引き合いもあり、コンテナ輸送で対応していく。一本松社長は「各地に営業をかけてイベントで使ってもらいたい」と意気込む。

今後、2号機以降の開発を進めたい考え。より複雑で大きな動作を可能にし、ダイナミックな演出を強化していく。出張演出やレンタルなどで平成31年度に3億円の売り上げを目指すほか、ラッキードラゴングッズも制作して知名度向上を図る。「将来の理想は、全国各地の川でラッキードラゴンが動くこと」と一本松社長の夢は膨らむ。

基本的な機構が完成しているため、上下左右への動きを活用した別の外装への応用も検討しており、地域の盛り上げに貢献するアトラクションを生み出し続ける。

一本松海運 株式会社

代表取締役社長 一本松 榮

〒530-0005 大阪市北区中之島6-4-7

TEL. 06-6441-0531

FAX. 06-6441-0530

資本金/12,000千円

従業員/25名

短期間 企画力 小ロット OK オナーン生産 量産 OK 海外対応 試作 OK 運搬力

ものづくり技術の力で
水都・大阪を感じられる観光を実現

代表取締役社長 一本松 榮

水都・大阪を実感してもらえる観光の目玉が欲しいと考え「ラッキードラゴン」を製作しました。その油圧機構は自社の観光船で使用している技術を応用しており、技術を観光に生かす企業として存在感を示しています。



取材を終えて

ものづくりの力を
生かした観光

ものづくり技術による経済の活性化は、製品を作って販売することに留まらない。「ラッキードラゴン」の製作は、観光船の運航というサービス業を柱とする「一本松海運」が、日本の製造技術を最大限に生かした好例といえる。人を楽しませる娯楽の現場を支えるのも技術。「一本松海運」の取り組みには、技術活用により人の心が豊かになる期待が膨らむ。

<http://www.ipponmatsu.co.jp/>